

第3次玉名市総合計画 基本構想（案）に関する意見募集の結果及び玉名市の考え方について

令和8年6月5日
玉名市企画経営部企画経営課

「第3次玉名市総合計画 基本構想（案）」について、市民等の皆さまからのご意見を募集したところ、次のとおりご意見をいただきました。寄せられたご意見の内容とこれらに対する市の考え方を示しています。

- 1 意見募集期間 令和8年4月1日から4月22日まで
- 2 意見提出件数 8件（2人）

番号	ご意見・ご提案の内容	ご意見に対する市の考え方	修正内容
1	<p>① P2</p> <p>■基本目標 1</p> <p>①>自然共生する持続可能なまちを目指し、地下水を含む水環境の保全や環境調査等を進める</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>別文書に記載あるのかもしれませんが、具体内容を把握しておきたいです。</p> <p>②>地震や豪雨等に備え、関係機関との連携を強化し、防災体制の充実と防災・減災に資する基盤整備</p> <p>>訓練や防災教育を通じて「自助」「共助」「公助」を促すことで、真に災害</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>関係機関とはどのようなもののでしょうか？水田等が多いため、上下水道・農業集落や排水機場等との連携・維持管理の状況はいかがでしょうか？</p> <p>少子高齢化が進行する中、自助・共助・公助は、具体対策をもって進めなければいけない課題と感じておりますが、具体策はいかがでし</p>	<p>地下水保全については熊本県と連携し、地下水の採取量調査やモニタリング調査を実施しています。</p> <p>また、河川環境保全については菊池川流域9市町村で構成する菊池川流域同盟と連携した河川水質調査や、ホームページ・広報紙を通じた啓発活動に取り組んでいます。さらに、令和8年度には地下水の硝酸性窒素に関する計画を策定予定であり、地下水質保全の取組も強化していきます。</p> <p>関係機関とは、国・県・気象台・警察・消防などの公的機関及び公共交通・インフラ事業者です。</p> <p>上下水道施設や排水機場などは、各担当課にて日頃維持管理していますが、災害発生前後においては随時情報を共有し、連携を図っています。</p> <p>少子高齢化に伴い、生産年齢人口比率が低下する中、これまで「自助」、「共助」を担ってきた主体による地域防災力の低下が懸念され</p>	<p>修正なし</p> <p>修正なし</p>

	<p>ようか？</p> <p>■基本目標2</p> <p>③> 技力向上、地域コミュニティの活性化、一人ひとりの人権尊重と「誰一人取り残さない」視点</p> <p>↓</p> <p>難しい課題と察しますが、具体的な内容を（明文化せずとも今後において）示していただきたく存じます。</p>	<p>ています。そのような中で、自主防災組織の結成や活動支援、防災訓練や防災講話などを実施し、これまで以上に市民の防災意識を高め、防災体制の強化を図ります。</p> <p>「競技力向上」に関しては、本市は各種競技スポーツが盛んであり、様々な年代で、全国大会などに出場しており、激励金交付や広報たまなによる周知を実施しています。また、スポーツ関係団体と連携し、資質向上・資格取得の促進など指導者育成を図っています。</p> <p>加えて、レベルの高い試合、競技を見ることも技術向上には重要であり、金栗杯玉名ハーフマラソン大会の開催や、各競技団体が主催する大会について支援を行っています。</p> <p>「地域コミュニティの活性化」に関しては、公民館支館を単位とする地域で、運動会等スポーツ行事が実施され、多世代間交流による、親睦が深められています。</p> <p>本市では、各支館のスポーツ推進委員会を中心として、ニュースポーツ大会などの取組を支援しています。また、研修会や講習会を開催し、推進委員相互の交流やスキルアップの機会も提供しています。</p>	<p>修正なし</p>
--	--	--	-------------

<p>■土地利用方針（ゾーニング）</p> <p>玉名市エリアには、西日本地域で見ても非常に貴重な環境エリアが存在していることが、有識者から報告されています。</p> <p>新玉名駅周辺や菊池川周辺における農業用水路等の整備計画が進んでいる状況と思いますが、世界的に取り組まれているネイチャーポジティブ・SDGs等の思想に基づき、治水・利用・環境のバランスへの取り組み、持続可能な社会への実現が、今後において重要と考えられます。</p> <p>急展開は難しくとも、具体的な適応策を明示し、取り組むべきと感じています。</p> <p>個人の我儘意見ですが、ご一考いただけますと幸いです。</p>	<p>「医療・健康・健診」、「子育て・学校教育」、「年代」、「性別」、「居住地」の10タイトルを準備しており、ニーズに合わせての配信を行っています。</p> <p>カテゴリを新規に設定することは可能ですが、ごみ収集日や市税など、配信頻度が高いものを優先して作成しています。</p> <p>玉名市特有の貴重な自然環境の保全と治水・利活用のバランスを図り、持続可能な社会に向けた取組の重要性は認識しています。</p> <p>今後、基本計画や各施策ごとの計画の中で有効な適応策の検討を図ります。</p>	<p>修正なし</p>
--	--	-------------

番号	ご意見・ご提案の内容	ご意見に対する市の考え方	修正内容
2	<p>基本目標1の部分について</p> <p>基本目標1について、自然環境の保全や防災・減災の重要性が丁寧に示されていて、方向性にとっても共感いたします。一方で、近年重要性が高まっている「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の視点について、もう少し触れてもよいのではないかと感じました。自然環境を守るだけでなく、より良い状態へとつなげていくという考え方を取り入れることで、より発展的な内容になると考えます。</p> <p>また、将来へ引き継ぐべき本市の財産として、山や川、海といった自然環境に加え、玉名の生物多様性そのものについても明記されるとよいのではないのでしょうか。特に、里山の環境や、日本遺産にも認定されている「菊池川流域の二千年の渡る米作り」に代表される玉名市内の水田は、多様な生きものを育ててきた大切な基盤であり、こうした背景も含めて自然の価値として広く共有されることを期待します。</p> <p>さらに、水田は「多面的機能」の一つとして、自然の遊水池の役割を担い、降雨時には水を一時的に貯留することで集落への被害軽減に寄与してきた側面もあると考えられます。このような点からも、水田については景観や農業生産の観点にとどまらず、防災・減災の観点からの位置付けについても触れられるとよいのではないのでしょうか。</p> <p>加えて、これらの価値を次の世代へしっかりとつないでいくためには、子どもたちへの環境教育も重要な取組であると考えます。学校や地域と連携しながら、身近な自然や暮らしとの関わりを学ぶ機会が充実していくことを望みます。</p> <p>以上の点について、今後の検討の中でご考察いただけますと幸いです。</p>	<p>ご意見にありますとおり、国際的にネイチャーポジティブ（自然再興）、生物多様性の視点は、持続可能な地域社会を築く上で極めて重要であると認識しています。</p> <p>今回いただきましたご意見も踏まえ、生物多様性に関する取組の充実を検討します。</p> <p>また、水田（農地）は災害防止等の「多面的機能」を有しています。</p> <p>第2次玉名市総合計画後期計画では、水田と同様に多面的機能を有している森林について「森林の環境保全」「森林の多面的活用と整備」を記載しており、水田についても第3次総合計画基本計画での記載を、関係部署と協議・検討します。</p>	修正なし

<p>す。</p> <p>10 ページ「土地利用方針図」について</p> <p>新玉名駅南側は「市街地ゾーン」として位置付けられていますが、12 ページの「まちなか未来図」に示されているエリアビジョンの内容を踏まえると、「市街地ゾーン」に加えて「田園ゾーン」の要素もあわせ持つ区域として整理する方が、より実態や将来像に即しているのではないかと感じました。</p> <p>また、新玉名駅は玉名市にとどまらず、熊本県北の玄関口であり、さらに日本遺産に認定されている菊池川流域への入口としても重要な役割を担う場所であると考えます。そのため、一般的な都市型の新幹線駅前のような整備ではなく、流域の魅力が感じられる、農業と自然が調和した空間としての方向性が示されることを期待します。</p> <p>以上の点について、今後の検討の中でご配慮いただけますと幸いです。</p>	<p>新玉名駅周辺については、重要な交通拠点となることから、土地利用方針としては「市街地ゾーン」に位置付けていますが、周辺には広大な優良農地が広がっています。</p> <p>玉名市都市計画マスタープランでも、新玉名駅周辺等整備基本計画に基づき、「田園風景にたたく県北玉名のゲートタウン」の実現を目指し、周辺の土地利用との調和を図るとともに、適正な機能の誘導を図るとしています。</p> <p>また、玉名市景観計画においても、景観形成推進地区として位置づけており、自然景観と調和したまちづくりが必要であると考えています。</p>	<p>修正なし</p>
--	---	-------------